

短納期と高品質を実現するアパレル流通加工ワンストップ体制の構築

■本事業への経緯

アパレル産業を物流で支える

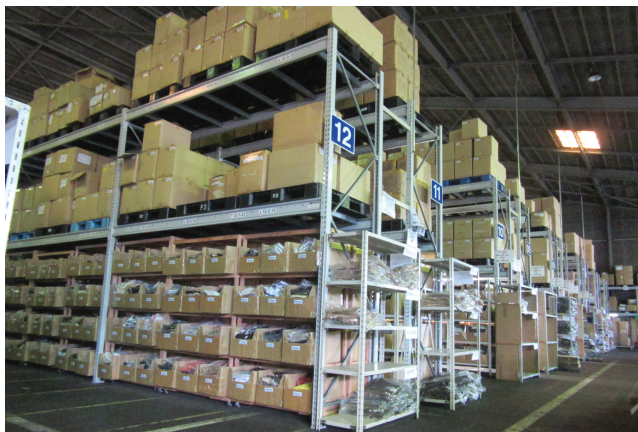
昭和 59 年物流業をはじめ、平成 4 年頃からは成長産業の一つであったアパレル業界の物流を強化しはじめた。当時はまだ物流業界では珍しい検針機を導入するなど競合他社との差別化をはかり、アパレル関連の売上比率を徐々に高め、平成 10 年からはアパレル業界の物流に特化した。

アパレル業界は、メーカーが小売店を経営、或は、小売店が商品開発をするといった S P A (製造小売業) が市場を開拓し、力を持つようになった。どちらも製造から販売までを自社で手掛けるもので、ユニクロやしまむらなどが S P A に入る。

S P A は、顧客ニーズに応じて迅速に商品を開発、提供する。各工程を極力シンプルにし間接コストを下げること、商品の低価格を可能にする。そのため、開発した商品を迅速に店頭と並べると共に、流通コスト削減に対する意識も高い。

S P A 業界で求められる短納期、低コスト化はアパレル業界全体のニーズだともいえるだろう。メーカーの多くは低価格化を図るために中国などアジアに生産拠点を置き、日本に輸入している。

物流についても同様に、流通加工段階において短納期化とコスト削減が求められている。流通加工は、「荷受」「検針」「検品」「加工」「配送」という荷物の引き受けから配送までを指す。通常、こういった工程は、メーカーや商社が工程別に発注するものだが、時間と



コストがかかる。この課題を同社は、流通加工のワンストップサービスを提供することで解決している。具体的には、まず、博多港や福岡空港で荷揚げされた荷物を荷受する。博多港・福岡空港に近い立地に拠点をもち、両港から車で 20 分以内の好立地にあり、迅速な配送が可能だ。また自社便による小回りが利く運送で、全国各地へ小口配送からチャーター輸送まで対応できる。

次に検針と検品を行う。検針は、折れた針などの金属片が混入していないかをチェックする。同社は、九州のアパレル流通加工業界において初めて X 線検査装置を導入し、従来の検針機では検出が難しかった金属が使用された商品の検針や触診をしにくい靴、バッグ、雑貨等商品の形状・素材を問わず高精度な異物検査を実現している。

検品では、縫製不良や汚れ、傷、色ムラ、タグ、付属品の不備等の商品の品質に関する検査を行う。検品で不良品が発生した場合は、必要に応じて補修する。その後、値札付けや防水加工、ボタンの付け替えなどを行い、配送先別に個別梱包する。梱包後から配送までの間は、倉庫で保管する。そして、メーカーや商社からの出荷指示に基づき、全国各地の商社、販売店へ配送する。

■事業の内容

アイロンプレス加工の内製化を図る

このように物流加工をワンストップで受ける体制を構築し、アパレル業界を支えてきたが、国際競争が激しくなるなか、業界ではこれまで以上に短納期化、低コスト化を求められるようになってきた。

そこで、物流加工の各工程を見直したところ、アイロンプレスの工程に時間がかかっていることが判った。海外から輸送されてくる衣料品の中には段ボール箱の中に押し込められてシワだらけのものもある。この状態では商品価値を著しく損なうことになる。そこで、シワを伸ばして仕上げる工程が必要になるが、アイロンプレスだけは外注していた。そのため、どうしても外注先との荷物の受け渡し、加工に時間が 4 日必



革新的サービス

プロスパー産業株式会社 (福岡市)

要になる。そのため、荷受けから出荷まで最短でも 7 日かかってしまう。

■事業の成果

アイロンプレス工程を 4 日から 1 日に短縮

この課題を解決するため、立体プレス機を導入しアイロンプレス工程の内製化を図った。立体プレス機は人のボディの形をした機械に背広やコート、セーター等を着せて、中からの蒸気でシワを伸ばすものだ。実際に導入してみると、外注で 4 日かかっている工程が 1 日で対応できる。荷受けから出荷まで最短 7 日かかっていたものが、4 日まで短縮できた。配送コストも削減できた。

同社のように荷受けから出荷まで一貫して対応できる業者は九州内でも 20 社程と少ない。その上、アイロンプレスまで保有している会社はなく、スピード面において優位性を確保できたことになる。これは大きな差別化だといえる。

設備導入にあたっては、アイロンプレス機の外部熟練者から指導を受けた。今後は、作業員の熟練度を高め生産性を上げたいと考えている。そうすると、今までとは逆に、他社からアイロンプレスの依頼を受けることができ、さらに収益アップが見込める。

■今後の課題・展望

東南アジアからの輸入はさらに増大する

アパレル業界の市場は平成 19 年から 22 年までは横ばい、平成 27 年以降増加に転じた。

そのけん引役を務めているのが、ファストファッションを提供する S P A 企業である。こうした企業は、安い生産力を求めてアジアでの生産をさらに強化する



立体プレス機。蒸気を使ってシワを伸ばす。

立体プレス機でも伸びないシワは、アイロンを使って伸ばす。

検針機を使って、金属片などが混入していないかチェックする。

検品作業。検針、検品作業で安全性と品質をチェックする。

だろう。実際、東南アジア諸国からの輸入は大幅に増加している。

輸入量が増えることは、輸入時のより精度が高い検針・検品が求められる。物流工程における役割はさらに大きくなる。同社が強化した物流加工のワンストップはこれから、さらに重要性が高まるだろう。

企業概要

会社名 プロスパー産業株式会社
住所 福岡市博多区金の隈3-21-13
代表者 竹下 裕子
連絡先 092-503-8013
資本金 1,000万円

設立 昭和63年
事業内容 アパレル商品、雑貨の物流加工全般、貨物運送事業、倉庫保管業
従業員数 38人
ホームページ <http://prosper-ind.com>